

越水被害により堤防整備を加速させた「日置川」の整備効果

令和3年7月梅雨前線豪雨では、鳥取市青谷地区で観測史上1位の48時間雨量318ミリを記録し、勝部川流域では床上浸水3戸、床下浸水12戸の内水被害が発生した。ただ、過去の越水被害により堤防整備を加速させていた日置川と露谷川では越水を防止し、河川整備に伴う効果が発現された。引き続き、残る堤防の整備を加速させ、早期に地域の治水安全度の更なる向上を図る。



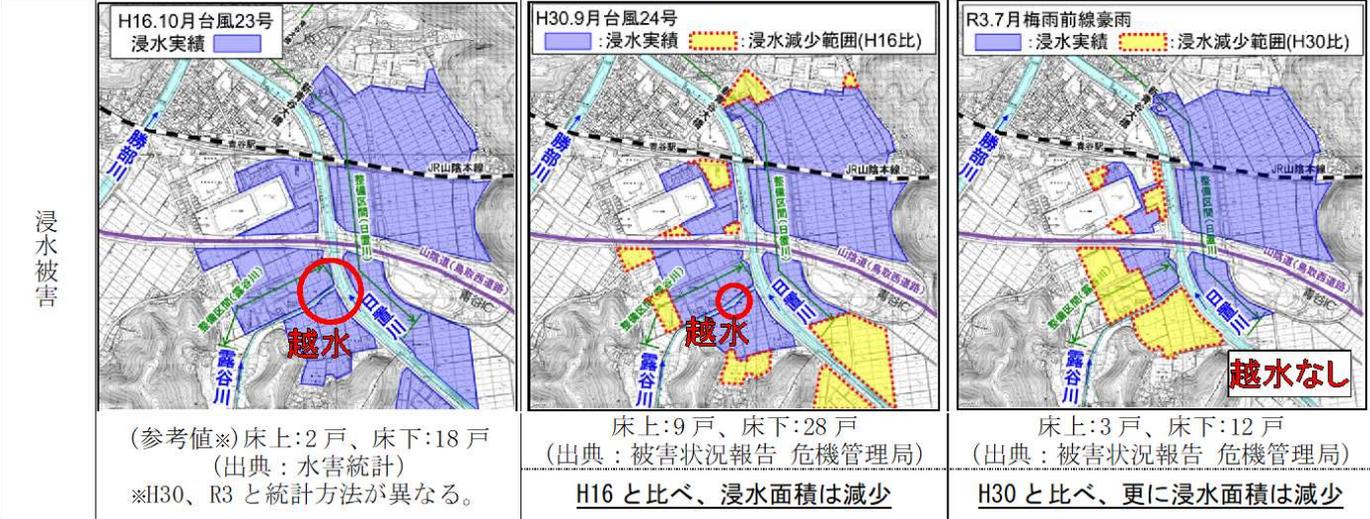
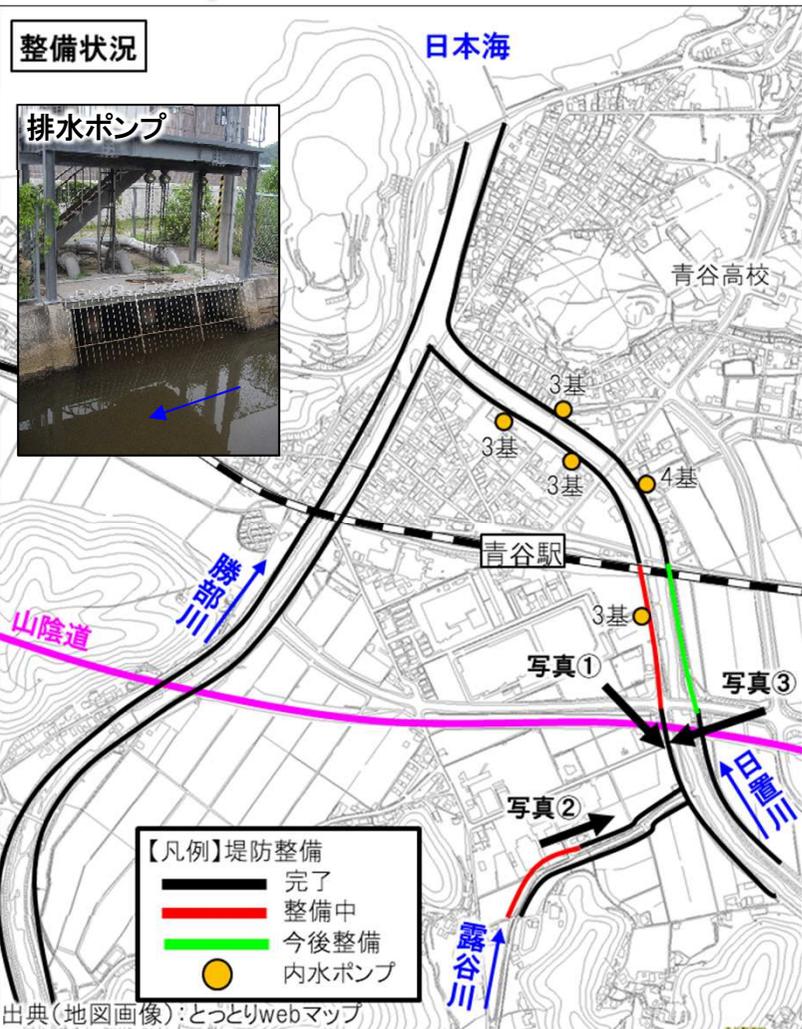
【河川の整備効果】

- ・令和3年7月梅雨前線豪雨では平成16年台風に比べ大きな降水量があり、平成30年と比べ同程度の降水量を記録。
- ・一方、堤防整備を先行して進めたことにより、河川からの越水は解消され、浸水面積の減少へ繋がっている。

	平成16年10月台風23号	平成30年9月台風24号	【今回】令和3年7月豪雨
異常気象	1時間: 37mm 24時間: 195mm	1時間: 44mm 24時間: 241mm	1時間: 44mm 24時間: 279mm
河川の氾濫状況	日置川: 越水あり 露谷川: 越水あり	越水なし 越水あり	越水なし 越水なし
河川への排水能力	排水ポンプ: 40m ³ /min (合計10基) 整備状況	72m ³ /min (合計15基)	77.3m ³ /min (合計16基)

河川整備と排水能力強化により内水氾濫範囲が減少

整備状況



日置川
(令和3年7月7日12時30分頃)



露谷川
(令和3年7月7日13時30分頃)



青谷町善田地区(内水被害)
(令和3年7月7日12時30分頃)